

9月 9月12日(日) AM9:30 ~ PM4:30 受講料 / ¥10,000 (歯科衛生士の方は¥5,000)

3コース

## 先進技術を生かした 「審美修復治療」のススメ



末瀬 一彦  
大阪歯科大学 客員教授  
歯科技工士専門学校・歯科衛生士専門学校 学校長

### 略歴

昭和55年 大阪歯科大学大学院博士課程修了  
平成 2年 大阪歯科大学講師(歯科補綴学第2講座)  
平成 9年 大阪歯科大学歯科技工士専門学校学校長  
平成20年 大阪歯科大学歯科衛生士専門学校学校長(兼務)  
全国歯科技工士教育協議会会長(平成13年~現在)  
日本補綴歯科学会 指導医・認定医  
日本歯科審美学会 認定医  
日本口腔インプラント学会 認定医  
日本歯科理工学会 Dental Materials Senior  
Adviser (審美修復材料)

近年の審美的歯冠修復材料の開発、進歩は著しく、日常臨床において材料や修復方法に戸惑うことも少なくない。単独冠の95%以上が失活歯であることから、支台築造は必須の治療プロセスであるが、鑄造ポストコアが主流であった従来の支台築造法から最近のファイバーポスト応用コンポジットレジンコアへ大きく変遷し、その目的も変化してきた。さらに、患者さんおよび術者のニーズにおいて、より美しく、自然感のある修復物が求められ、審美的歯冠修復方法も多種多様である。ハイブリッド型コンポジットレジン、機械的特性や操作性が大きく改善され、広く臨床適用できる可能性をもっている。また、セラミック修復においては製作方法の変遷に伴って、長期にわたるエビデンスが確立されているセラモメタルクラウンと審美性の高いオールセラミッククラウンは凌ぎを削り、「審美修復治療」の双壁にある。特に、ジルコニアの導入によってセラミック修復は大きく革新し、その適用領域も広がっている。しかし、その背景にあるのは接着技術の確立とCAD/CAMシステムの発展であり、Digital Technologyの登場によってこれからの「審美修復治療」は大きく変化すると思われる。